

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第 57 号 / 2010 年 12 月 9 日発行

編集 / 医学研究科長

### 『大学院とは —M 先生の話—』

産婦人科学講座 嘉村敏治 教授

大学院は目的を持って入学するのが理想的であろうが、なんとなく基礎医学が学びたくて入学するのも決して悪くはないと思う。

小生は昭和 49 年に医学部を卒業、すぐに産婦人科学教室に入り研修医となった。初年度は大学の関連病院での研修、ここでは小生を含め 3 名の常勤医で年間 1000 例を超す分娩と婦人科救急、それに加えて婦人科がん手術まで取り扱っていた。昼食はとれないことの方が多かったが、若さのゆえに忙しさは余り苦にならなかったことを思い出す。2 年目は大学病院での研修だったが、当時も産婦人科は入局が少なく、大学病院には 3 年目まで 4 名の医局員しかいなかった。高次病院であるので産科も婦人科もハイリスク症例ばかりで、しかも医師一人当たりの患者数は大変多く、ここも若さで乗り切るしかなかった。この研修医の 2 年間で興味を持ったのは悪性腫瘍であり、2 年目は大学病院勤務の傍ら毎週当時九州大学医学部にあった癌研究施設の細胞部での抄読会に参加するようになった。そこでは細胞部のスタッフや大学院生が、研修医の小生にとって難解な基礎論文を紹介するので最初はチンプンカンプンであった。当時 1975 年頃はウイルス発がんが報告され、そのウイルスのゲノム解析からがん遺伝子が同定され始めた頃で、その話を聞いて驚いたことを思い出すが、思えば分子生物学の黎明

期であったと思う。

次第に難しい論文もかなり理解できるようになり基礎研究の面白さに惹かれ始めた。そこで研修 2 年目の半ば頃に次年度癌研究施設細胞部へ大学院生として入学することを決め、当時の九州大学産婦人科学講座の滝一郎教授に癌研究施設細胞部門への大学院進学を願い出た。滝教授は婦人科病理が専門であったので、小生ががんの研究がしたいとお話しすると、てっきりがんの病理学的研究と思いこまれて、その足で当時第二病理学講座教授の遠城寺教授のところに行かれて、来年大学院生をよろしく頼むと言われたようである。次の日小生を呼び止めて遠城寺教授に話をしたところ大変喜ばれたということをお話された。小生は病理学ではなく癌研究施設で実験がんを使った研究を希望している旨を改めて伝えたところ滝教授は大変困っておられた。当時、現在ほどではないが基礎教室への大学院進学希望者は少なかったので、滝教授の話に遠城寺教授が喜ばれたのも当然であった。そこで滝教授も実はあれは間違いでしたと言えなくなってしまわれ、かと言って小生に病理へ入学先を変更させるわけにもいかず、結局だれかを病理学教室に大学院生として送り込まれることを考えられた。そこで白羽の矢が立ったのが小生の 1 年先輩の M 先生であった。滝教授はご存知なかったのであるが、M 先生は病理学に一番合わない先

生だと当時皆思っていた。その理由はM先生は顕微鏡を1分と見ることができなかったからである。それ以上見ると吐き気がするといった婦人科での病理当番を嫌がっていた。しかし滝教授のたつての希望でついに病理に行くことを決心されました。M先生は大学院を修了して産婦人科に小生と一緒に戻り、教室では同じ婦人科腫瘍研究室に所属し、現在は北九州の大病院の産婦人科部長である。なぜ病理大学院に行かされたかその理由をご存知ないようである。しかしM先生は病理大学院では高度な病理診断を身につけられただけではなく、大変立派な業績を挙げられた。子宮内膜の月経周期による組織学的変化を詳細に観察して報告され、それが子宮内膜日付診の基となり現在不妊症の治療に大変役立っている。もちろんその後M先生は顕微鏡を何時間見てもどうもないことは言うまでもない。

この話をしたのは、小生のように最初からなにかを狙って研究を始めることもよいが、一方でM先生のように全く考えていない分野に入っても、粘り強く研究方法論を身につけて身近なテーマを精度の高い方法で解析すればよい結果につながることを、若手医師あるいは医学生の方々に伝えたいからである。思い切って基礎研究に飛び込んでみよう。きっと何かいいことがある。

小生はその後ラットを使ってがんの温熱化学療法を行うことになるのであるが、それは後日にでも紹介させてもらう。



## ◆修士課程第2学年学生の皆様へ◆



### 学位論文提出と年度末スケジュール



#### 1. 学位論文申請書類と提出期限

〔提出期限：平成23年1月21日（金）17時（時間厳守）までに庶務課に提出〕

- ①学位論文審査願：1通
- ②主論文：5通（印刷公表が望ましい）
- ③参考論文：各3通（作成している者のみ）
- ④論文目録：1通
- ⑤論文要旨：1通
- ⑥履歴書：1通
- ⑦単位修得証明書：1通（教務課にて準備する）
- ⑧写真（4×3cm）：1枚

申請書類については、大学院ホームページ（<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>）の書式ダウンロードページよりダウンロードして下さい。また、申請書類のうち①～⑥については、下書きを提出締切日前に学位担当〔医学部事務部庶務課：中村（加）（内線3014）E-mail：nakamura\_kana@kurume-u.ac.jp〕に提出し、事前にチェックを受けられるようお願いいたします。

2. 口述試験〔期間：平成23年2月1日～2月17日〕  
\*詳細については学位申請時に説明。
3. 最終審査〔平成23年2月23日〕  
\*合否については3月1日以降各々指導教授に確認すること。
4. 学位記授与式〔平成23年3月23日11時～〕  
\*場所：筑水会館2階イベントホール



### ◆博士課程第1学年学生の皆様へ◆

#### 研究題目調査実施について

博士課程第1学年学生の皆様を対象に平成23年2月上旬ごろ研究題目調査を実施します。この調査は博士課程在学中の各自の研究テーマを調査するためのもので、久留米大学院医学研究科規程第9条に基づき、第2学年前期の始まる前までに決定することと定義されております。調査書類が届きましたら、必要事項記入の上、期日までに必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。

### ◆博士課程第4学年学生の皆様へ◆

#### 学位論文提出の手続きはお済みですか？



博士課程第4学年学生の皆様で今年度中に学位論文提出手続きの修了を希望されておられる方は、既に配布したスケジュールに沿って提出をお願いします。なお、提出されない方については、平成23年2月中旬ごろを目途に医学部事務部教務課から「在学期間延長・単位修得満期退学希望調査」を実施しますので、その際にご回答をお願い致します。

### 大学院セミナーシリーズ特別講義最終日程のお知らせ

平成22年度最終の特別講義についてご案内いたします。5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修登録者はセミナー出席の上、1週間以内に医学部事務部教務課までレポートをご提出下さい。

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
先端癌治療研究センター（肝癌部門）	12月13日(月) 18:00～19:30	基礎2号館1階 セミナー室 (会場変更)	奈良県立医科大学消化器内分泌代謝内科 講師 吉治 仁志 先生	「肝疾患に対する分子標的治療：既存薬剤による安全な治療の試み」

## 前期入学試験結果発表!!

平成22年10月19日(火)に行われた前期入学試験の結果は下記の通りです。  
後期試験については次項のとおり実施します。

	修士課程	博士課程
志願者	7名	10名
受験者	7名	10名
合格者	6名	10名

## 平成23年度大学院医学研究科後期入学試験のお知らせ

【試験日程】修士・博士ともに同一

出願受付期間：平成23年1月17日(月)～平成23年1月28日(金)

\*他に出願資格審査申請受付期間を設定しています。

平成22年12月13日(月)～平成22年12月17日(金)

例年より早い資格審査受付期間となっていますのでご注意ください。

試験期日：平成23年2月15日(火)

合格発表：平成23年3月11日(金)午前10時



【試験内容】

### \*修士課程

英語・小論文・面接 <<基礎医学・社会医学・分子生命科学・臨床看護学群>>

英語・面接 <<バイオ統計学群>>

### \*博士課程

英語・面接

別途、科目等履修生も募集しております。身近な方で、医学研究科に興味・関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どうぞご周知の程よろしく申し上げます。

## 編集後記

早いもので2010年も師走に入りました。この一年間授業に研究にと大変お疲れ様でした。日に日に寒さが増していますが、体調管理には十分留意され、良いお年をお迎えください。2011年も職員一同どうぞよろしくお願い致します。(菅)

